



早咲きのサクラ・秋冬にも咲くサクラ

本学構内にはソメイヨシノよりも早く咲くサクラも6種類が植えられています。これらはいずれも、冬から早春に濃紅色の花が咲くカンヒザクラという沖縄や台湾などに自生する野生種の影響を受けており、花色もソメイヨシノより濃いのが特徴です。また、晩秋から冬を経て春に至る長い期間花が咲き続ける二季咲き性の品種も、'ジュウガツザクラ'と'フユザクラ'という2品種が植えられています。「サクラは春のもの」と思っていられっしやる方、ぜひ一度、秋や冬にも咲く跡見のサクラをご覧ください。



‘カワヅザクラ’ (河津桜)

Prunus 'Kawazu-zakura'
跡見No./175~178,180

伊豆の早春をピンクに染める桜

伊豆半島の河津町で昭和30年に野生状態で発見された早咲きのサクラです。現在では同町で広く栽培され、満開になる2月には一足早い花見のために全国から観光客が訪れます。花色が濃く、萼筒が大型であることから、カンヒザクラが関与していると考えられます。本学に植えられているものは、伊豆に在住の文学部の内藤欽修先生が寄附して下さったものです。



‘オオカンザクラ’ (大寒桜)

Prunus 'Oh-kanzakura'
跡見No./168

国立駅に春を告げていた桜

ソメイヨシノよりも約1週間早く咲きます。花弁は縁に細かい切れ込みが多く、満開時でもやや抱えるように開くのが特徴です。JR中央線国立駅にはこの'オオカンザクラ'と、同じく早咲きの'カンザクラ'があり、春を告げるサクラとして親しまれましたが、残念ながら2005年春に伐採されました。本学のもは、樹木医の池本三郎先生がこの木から接ぎ木で増殖したものです。



‘トウカイザクラ’ (東海桜)

Prunus 'Takenakae'
跡見No./182,194

切花で馴染み深い桜

カンヒザクラとカラミザクラの影響がみられるサクラで、枝の刈り込みに強いのが特徴です。自然状態では3月中旬に開花しますが、切枝に温度をかけて早く咲かせることも可能です。このため、山形県や富山県で大規模に栽培され、早春のサクラの切花として全国に流通しています。本学の個体は、文学部の神山伸弘先生の自宅の株から池本三郎先生が接ぎ木増殖したものです。



コヒガン ‘ジュウガツザクラ’ (十月桜)

Prunus × subhirtella 'Autumnalis'
跡見No./138

晩秋の青空が似合う桜

品種名どおり10月頃から秋の青空の下で可憐な淡紅色の花が咲き、花数は少なくなるものの冬も咲き続け、春には再度多く開花します。花弁は細長く10~15枚程度。マメザクラとエドヒガンの種間に生じたものと考えられています。八重咲きで秋にも花が咲く品種には他に'コブクザクラ'がありますが、これは満開時に花が白く、萼筒が太いことで区別できます。



‘フユザクラ’ (冬桜)

Prunus 'Parvifolia'
跡見No./170

冬も咲き続ける桜

品種名のとおり冬空の下でも花が咲き続けるサクラです。'ジュウガツザクラ'とは異なり、花は白色で一重咲きですがやや大輪であるのが特徴で、マメザクラとオオシマザクラの種間に生じたものと考えられます。群馬県鬼石町の桜山公園にはこのサクラが五千本も植えられており、冬の桜の名所として有名です。葉がやや小型であることからコバザクラの別名もあります。

構内にはこの他に、'オオカンザクラ'と同じく国立駅で親しまれた木から樹木医の池本三郎先生が増やされた'カンザクラ' (No.171) もあります。また、'ナラノヤエザクラ' (No.184)、'オカメ' (No.187)、'シュゼンジカンザクラ' (No.189) も植えられています。





華麗なサトザクラ

ソメイヨシノやヤマザクラ、エドヒガンなどの花が散る頃には、サトザクラの見頃が始まります。サトザクラとは、オオシマザクラの特徴が強く表われた開花期の遅い品種のグループで、‘カンザン’のように華麗な花が咲く品種が多く、「八重桜」と呼ばれているものの大半はこのグループに含まれるのですが、‘シラユキ’のように一重咲きのももあります。本学構内には名前が判明しているものだけでもここに挙げたような24品種が植えられています。一般にはあまり植えられていない珍しい品種も含まれています。



‘ベニナンデン’ (紅南殿)
Prunus 'Beninanden'
跡見No./119

紅紫の花

佐野藤右衛門氏が栽培していた品種で、大阪造幣局など限られた場所でのみ見られる珍しいサクラです。花弁はサクラとしては濃い紅紫色でやや細長いのが特徴です。ヤマザクラの一品種とされることが多いですが、サトザクラグループとして扱うのが妥当です。



‘コウダイジ’ (高台寺)
Prunus 'Kodaiji'
跡見No./86~88

京都高台寺にちなむ桜

京都の高台寺にある原木から佐野藤右衛門氏によって増殖されたもので、一般には栽培されることが稀な珍しい品種です。花弁はごく淡い桃色で厚くひだが目立ち、ほぼ平らに開くのが特徴です。葉緑の鋸歯が粗く、先が著しく伸びることも特徴的です。



‘スザク’ (朱雀)
Prunus 'Shujaku'
跡見No./32,191

優しい紅色の桜

古くは京都の朱雀にあったものといわれています。花弁は10~12枚とやや少なめですが、花色は一樣に淡い紅紫色で柔らかな印象を受けます。花の柄は他のサトザクラと比較して細長く、花が著しく下を向いて咲くので控えめな優しさを感じます。



‘バイゴジジュズカケザクラ’
(梅護寺数珠掛桜)
Prunus 'Juzukakezakura'
跡見No./128,193

玉のように咲く桜

原木は新潟県阿賀野市の梅護寺にあり、国の天然記念物に指定されています。品種名は親鸞上人に因む伝説に由来します。花弁数は極めて多く、100枚に及ぶ花もあります。また、花は二段咲きで、花の中にもう一つ小さな花が咲くことも特徴です。



‘イチヨウ’ (一葉)
Prunus 'Hisakura'
跡見No./75,80,81,84,89~98,120~123,
125,126,131,133,134,136

早咲きの八重の桜

関東地方で最も一般的に栽培されるサトザクラのひとつで、本学でもサトザクラの中では最も個体数の多い品種です。八重咲きのサトザクラとしては早咲きで、花は淡紅色からほぼ白色へと変化します。品種名は雌しべの下半部が葉のようになることに由来します。



‘カンザン’ (関山)
Prunus 'Sekiyama'
跡見No./19,24,82,99,102,104,105,
108~116

外国でも人気

サクラとしては花色が非常に濃く大きな花が咲き、豪華な印象を受けるサトザクラの代表品種です。「八重桜」といえばこの品種を思い浮かべる方が多いようです。海外でも人気が高く世界中で植えられています。花は塩漬けにして慶事に飲む「桜湯」に使われます。



‘コマツナギ’ (駒繫)
Prunus 'Komatsunagi'
跡見No./127

大きな白い花

もとは京都の青蓮院にあり、親鸞上人が馬を繫いだという伝説があるサクラです。花は一重で白色、直径が5~6cmにもなり最大級の花が咲く品種として有名です。非常によく似たものに‘タイハク’ (太白) などがありますが、これらは同一物と考えられます。



‘シラユキ’ (白雪)
Prunus 'Sirayuki'
跡見No./67

雪が降り積むように咲く

品種名のとおりに真っ白い花が咲き遠目には雪が降り積むように見える清楚なサクラです。サトザクラとしては早咲きで、ソメイヨシノとほぼ同時に満開を迎えます。花弁は5枚、丸くふくよかです。萼筒や花の柄はやや太く短かめで、毛があることが特徴です。

「あなたが好きなサクラの品種は？」と問われると「好きな品種は‘八重桜’です。」という言葉を目にします。しかし、「八重桜」という品種は存在しません。一般に「八重桜」といった場合‘カンザン’等のサトザクラグループの特定の栽培品種を指すことや、サトザクラグループ全体の総称として使われることが多いようです。本学構内に植えられている八重咲きのサクラにはすべて品種名が書かれた樹名板がつけられています。樹名板やこのパンフレットを参考にしながら、正しい品種名を覚えてみませんか？きっと構内のサクラに対する愛着が増すこと請け合いです。

「八重桜」 というのは どのサクラ？



‘ギョイコウ’ (御衣黄)
Prunus 'Gioiko'
跡見No./44,165

緑色の桜

緑色の花が咲く珍しいサクラとして有名な品種で、江戸時代以前から栽培されています。品種名は天皇が召される「御衣」の色に花色をなぞらえたものです。花の終わりに赤い線が目立ちます。江戸時代に博物学者シーボルトが持ち帰った標本が、日本に現存します。



‘エド’ (江戸)
Prunus 'Nobilis'
跡見No./31,66,106,117,145,190

華麗な桜

花弁は淡紅色でフリルが目立ち、花が集まって咲く傾向が強く華麗なイメージのある品種です。‘アズマニシキ’ (東錦) や ‘ヤエベニトラノオ’ (八重紅虎の尾) などの非常によく似た品種が多く知られていますが、これらは全て同一物と考えられます。



‘タオヤメ’ (手弱女)
Prunus 'Taoyame'
跡見No./6,13

たおやかな女性

京都の平野神社境内にある原木から増殖された品種です。花弁はひだが目立ちごく淡い紅色で、若葉の紅茶色との対比が美しいのが特徴です。萼筒が暗紅紫色でしわが著しく目立つことも特徴的です。品種名は「たおやかでしなやかな女性」を意味します。



‘ショウゲツ’ (松月)
Prunus 'Superba'
跡見No./140,167,186

カーネーションのような花びら

関東地方で多く栽培される品種です。花の中心部は白色で、外側に向かって淡い紅色になります。また、花弁の先には細かい切れ込みが多く、カーネーションの花を思わせます。品種名‘Superba’は「優美な」という意味で、上品で美しいサクラです。



‘フゲンゾウ’ (普賢象)
Prunus 'Albo-rosea'
跡見No./77

雌しべが葉に変化

全国で一般的に栽培されるサトザクラのひとつで、暗めの淡紅色の花色が独特の印象を与える品種です。雌しべは普通2個の細い葉に変化しており、品種名はこの雌しべを普賢菩薩が乗る象の姿に見立てたものといわれます。花は「桜湯」にも利用されます。



‘アラシヤマ’ (嵐山)
Prunus 'Arasiyama'
跡見No./36,83,130,164

若葉との対比が美しい花

わずかに紅色を帯びた花と、紅茶色の若葉とのコントラストがヤマザクラと同様、雅びやかなサクラです。花は一重で花弁は5枚であるのが普通ですが、6~7枚のものも混ざります。花弁はほぼ円形で大きくふくよかで、萼片に細かい鋸歯があるのが特徴です。



‘ウコン’ (鬱金)
Prunus 'Grandiflora'
跡見No./68,166

黄色い桜

淡黄色の花が咲く珍しいサクラとして有名な品種で、江戸時代以前から栽培されています。品種名は花色をショウガ科のウコンの根で染めた黄色になぞらえたものです。花は咲き進むにしたがって中心部から紅色に変化します。欧米でも人気がある品種です。



‘センダイシダレ’ (仙台枝垂)
Prunus 'Sendai-shidare'
跡見No./100

白滝が流れるごとく咲く

花はほぼ白色で一重咲き、サトザクラとしては小型で地味ですが、花がたくさん咲き枝が弓なりに垂れるため、遠目にはこぼれる花の滝のように見える優美なサクラです。サトザクラとしては早咲きでソメイヨシノの満開の直後に見頃となります。

本学には、ここに名前を挙げた24品種と品種名がはっきりしないものが2個体あります。また、‘クシマザクラ’ (No.29,192) とされているものもありますが、この‘クシマザクラ’ という品種自体が‘フゲンゾウ’ と同じものである可能性が高いため、ここでは紹介していません。このようにサトザクラグループでは、同じ品種が違う名前と呼ばれたり、逆に違う品種が同じ名前と呼ばれる場合があるなど、分類上の問題が山積みになっているため、現在国内で栽培されているサトザクラには何品種があるのかを正確に決めることはできないのです。

サトザクラ って何種類 があるの？



‘シバヤマ’ (芝山)
Prunus 'Shibayama'
跡見No./38

珍しい系統の里桜

白色で一重の花が清楚な印象を与えるサクラで、一見したところでは‘シラユキ’ に似ていますが、葉縁の鋸歯の形状が異なるので識別できます。サトザクラの中では唯一、富士山や箱根に多く自生するマメザクラの血を引くことがはっきりしている品種です。



‘スルガダイニオイ’ (駿河台匂)
Prunus 'Surugadai-odora'
跡見No./174

香りの桜

かつて江戸駿河台の庭園にあったといわれるサクラです。花弁は白く一重咲きなのでサトザクラとしては地味ですが、品種名通りよい香りがあり、咲き初めの頃に特に強く芳香を放ちます。花弁の先が細く切れ込むこと、若葉は茶色味が強く細いことも特徴です。



‘ベニユタカ’ (紅豊)
Prunus 'Beni-yutaka'
跡見No./169

北海道生まれの桜

北海道の「桜の町」として名高い松前町で、1961年に作出された品種です。品種名どおり、花弁は赤みが強く大きく開くのが特徴で、青空の下でよく映えます。サトザクラとしてはかなり早咲きで、ソメイヨシノの花が終わる頃に開花します。



‘ケンロクエンキクザクラ’ (兼六園菊桜)
Prunus 'Sphaerantha'
跡見No./172

兼六園ゆかりの桜

金沢市の名園・兼六園に伝わった原木から佐野藤右衛門氏によって増殖された品種です。花弁数が非常に多いことで知られており、その枚数は300枚以上におよびます。鞠のようなかわいらしい花形になります。開花期は、非常に遅いサクラです。



‘ミクルマガエシ’ (御車返し)
Prunus 'Mikurumakaishi'
跡見No./179

八重か、一重か？

‘コマツナギ’ と並んで大きな花が咲く品種ですが、花弁が5枚の花と、6~7枚ある花が1つの木に混ざります。この下を牛車で通過した貴人が「今のサクラは八重だ、いや一重だ」と言い争った末、確認のために車を引き返したのが品種名の由来とされています。



‘シロタエ’ (白妙)
Prunus 'Shirotae'
跡見No./173

白いバラを思わせる桜

花は白色ですが、大きくふくよかな花弁が10~15枚あるので、白バラのようにシックな華やかさがあります。よく似た品種に、花柄が長く垂れ下がる‘アマヤドリ’がありますが、現在各地で‘アマヤドリ’として栽培されているものの大半はこの品種です。



‘マザクラ’ (真桜)
Prunus 'Multiplex'
跡見No./163

縁の下の力持ち

白い花が咲くといわれますが、花を觀賞するためではなく、他の品種を接ぎ木で増やす時の台木として栽培されるサクラです。構内のサクラも、この品種に接いで育てられたものが多く、‘コマツナギ’などの株の脇から枝が伸びだしているのが見られます。



‘ランラン’ (蘭蘭)
Prunus 'Ranran'
跡見No./183

パンダの名前がついた桜

ほぼ白色で、パンダのようにもことした花が可愛い、北海道松前町で作出されたサクラです。品種名は、中国と交流のあった松前町の子供達が、上野公園にいたパンダ・ランランの名前にちなんで1980年に命名したというエピソードがあります。